

## 随 想 製 品 と 商 品

宮 川 松 男\*

先ごろ、といつても、既に数年前のことになるが、経営者や経済学者との座談のおりに、たまたま、私の発言の中の製品設計とか、製品開発とかいうことばに対して、「いかにも技術畑の人らしい用語をお使いになりますね。我々経済関係の者にとつて、製品と商品とは、受け取り方がだいぶ異なります。商品については、技術的な側面からどうとらえておりますか。」と問いかけられ、いささか答えにとまどつたことを思い出す。

このときの強烈なショックは、その後、私の脳裏に焼きついていて、技術関係の評価に当たるときには、商品としてのアプローチを心がけるようにしている。

「作つた物」としての製品と「売る物」としての商品との違いは、おのずから明らかであるが、私のような技術関係の研究畑で育つた者のセンスでは、なかなか、客筋の要望する商品<sup>1)</sup>を念頭においた研究や技術開発、更にその評価は、とらえにくいものである。

最近の雑誌<sup>2)</sup>を読んでいたところ、(株)ソニーの菊池誠中央研究所長は、いみじくも、次のように述べておられる。すなわち、「研究開発は、商品に対するお客さんの興味の強さによつて支えられている。マーケットが温かいと、商品を作るほうは、くふうをこらして、更に魅力のあるものを提供する努力をする。これが開発競争の原動力となる。」と。

し烈な商品開発競争に明け暮れるエレクトロニクス産業の技術開発における基本的な考え方が、ここに端的に示されているように思われる。

もちろん、一貫製鉄所から生産される膨大な量の鉄鋼は、一方では、極めて多品質の受注品から構成され、それらが、それぞれ、商品としてのきめ細かい開発努力によつて、世界のトップレベルにあることは、よく知られている。

我が国における自動車産業の隆盛を支えている一因も、成形性の優れた薄鋼板、二相高強度鋼板を始め、自動車産業界のニーズに応じた各種の鉄鋼材料の開発に負うところが大きいとの指摘は、こうした一面を物語るものであろう。土木・建築構造用、船舶構造用、電子機器等々、類似の開発例は、数多くみられる。

しかし、それにもかかわらず、鉄鋼分野の商品に対する意識は、前述のエレクトロニクス関係のそれと比べていかなるものであろうか。最終需要家向けの(狭義の)商品と、その構成材料としての(広義の商品である)鉄鋼材料との違いというだけではないものがあるように思

われるのである。

素形材加工<sup>†</sup>の分野では、制御圧延の成功に刺激をうけて、バッチ生産システムへの加工熱処理の導入が試みられ、また、各種鋼管の二次成形例も多くなつてきているが、これらに対する鉄鋼材料側からのアプローチは、まだ本格的に行われてはいない。更に、医用材料とか、機能性複合材料などへのアプローチは、他の材料分野における研究・開発の意欲と比べて明らかに差がみられるようである。

鉄鋼材料は、あまねく全産業に活用されており、それだけに鉄鋼技術の進展に期待する声が大いことは、今更いまでもない。高性能な研究設備と優秀な人材を多数かかえているうえ、製鉄所および関連分野において、これまで蓄積してきた高度の技術ポテンシャルを保有しているのであるから、それらが新しい商品<sup>1)</sup>の開発はもちろんのこと、テクノロジー・トランスファーという形でさえも、他の産業技術に大きな影響を与えうることであろう。

話題が飛ぶようであるが、新材料開発関係の大型プロジェクトで、開発目標を特定せず、柔軟かつ自由な発想によつて運営しようとしたことがある。このとき、材料研究者の中から、開発目標について、具体的にいかなる機器のいかなる部品用というように特定しなければ、研究が進めにくいという意見が出されたことを記憶している。使用者側の仕様に基づいて開発を行つてきた材料研究者の宿命的一面をみせられた思いであつたが、こうしたことも、商品に対する意識とかかわりがあるのかもしれない。

わずかな期間、籍をおかせていただいた金属系学科における研究と教育の両面での活動をみたくざりのごことではあるが、基礎的な分野の研究実績を積み、優れた、しかも若い研究者ほど、視野が広く、自らの研究成果の応用面への展開が上手で、技術開発への寄与が高かつたように思われる。

受注品の性能向上という開発命題のほか、更に、商品の開発という側面についても今後いつそ発展させていただければ幸いである。

### 文 献

- 1) 菊池誠：日本型創造力の秘密 (1984), p. 112  
[文藝春秋(株)]

\* 長岡技術科学大学副学長 工博

† 通商産業省の定義によれば、「素形材とは、鋳造法、塑性加工法のよりに金属素材を造形するとともに、金属組織学的な変化を付与する加工方法によつて造られた材」であり、棒、条、線、板、管および小さいスラブなどは、前素形材と呼ばれている。